

交通死亡事故（高齢歩行者 横断中）の特徴



照らされてからでは
避けられない。

愛知県警察本部
交通総務課事故対策室



目 次

資料中の各数値は、過去5年間（令和3年～令和7年）に発生した交通死亡事故データ（発生日基準）から抽出したものです。

- 1 歩行者死者数の月別推移
- 2 歩行者死者【年齢層別】
- 3 高齢歩行者死者【年代別】
- 4 高齢歩行者死者【事故類型別】
- 5 横断中高齢歩行者死者【横断場所別】
- 6 横断中高齢歩行者死者【月別・発生時間別】
- 7 横断中高齢歩行者死者【警察署別・発生時間別】
- 8 横断中高齢歩行者死者【警察署別・発生時間別】
- 9 横断中高齢歩行者死者【車両進行方向別・昼夜間別】
- 10 横断中高齢歩行者死者【反射材使用別・服装別】
- 11 高齢者に対する意識調査
- 12 高齢歩行者の横断実験
- 13 交通事故に遭わないために

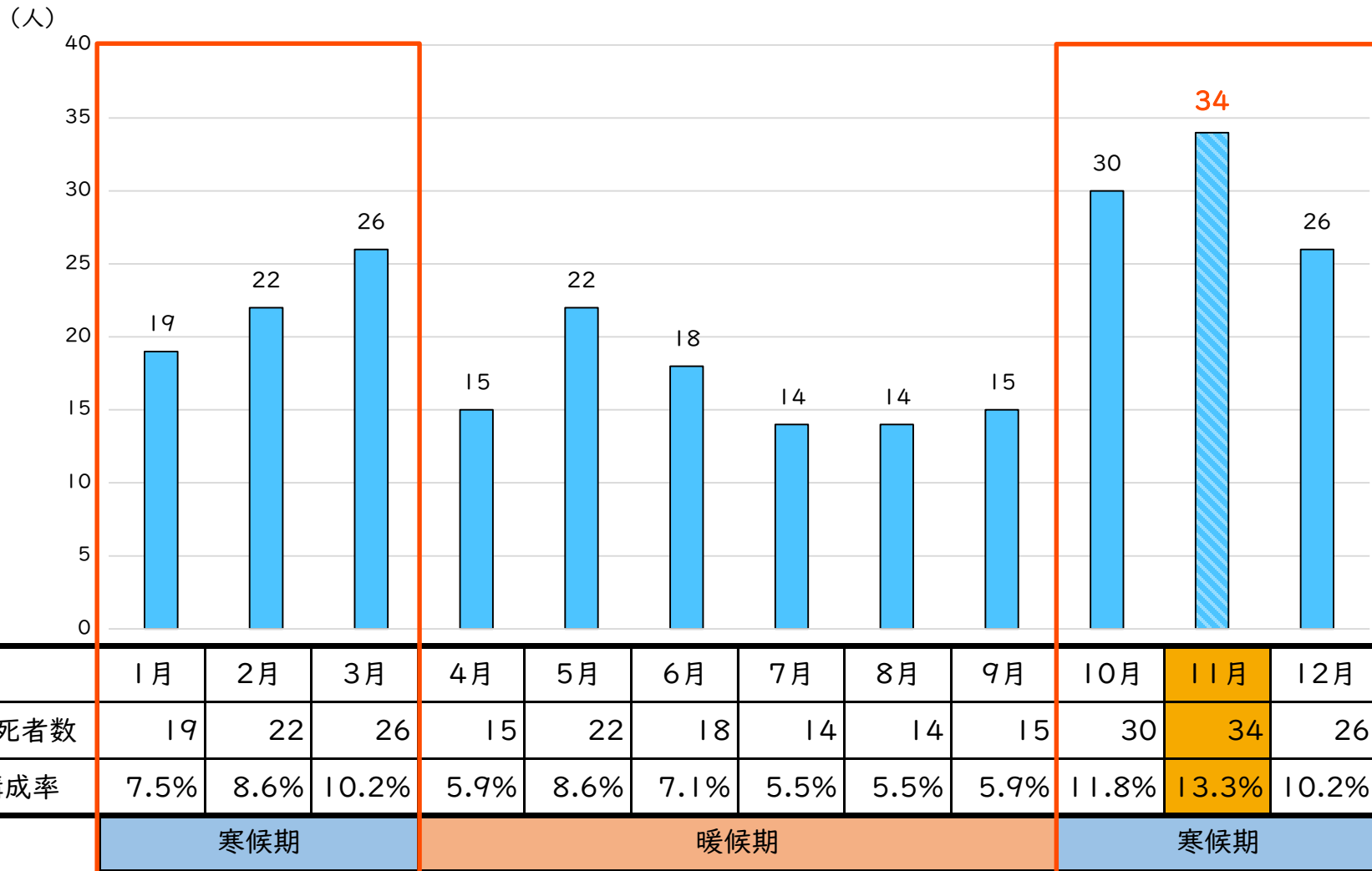


歩行者死者数の月別推移

過去5年合算
(発生日基準)

1

- 歩行者死者は255人で、月別では、寒候期である1月～3月及び10月～12月が多発傾向となっている。
- また、11月が34人で最多となっている。

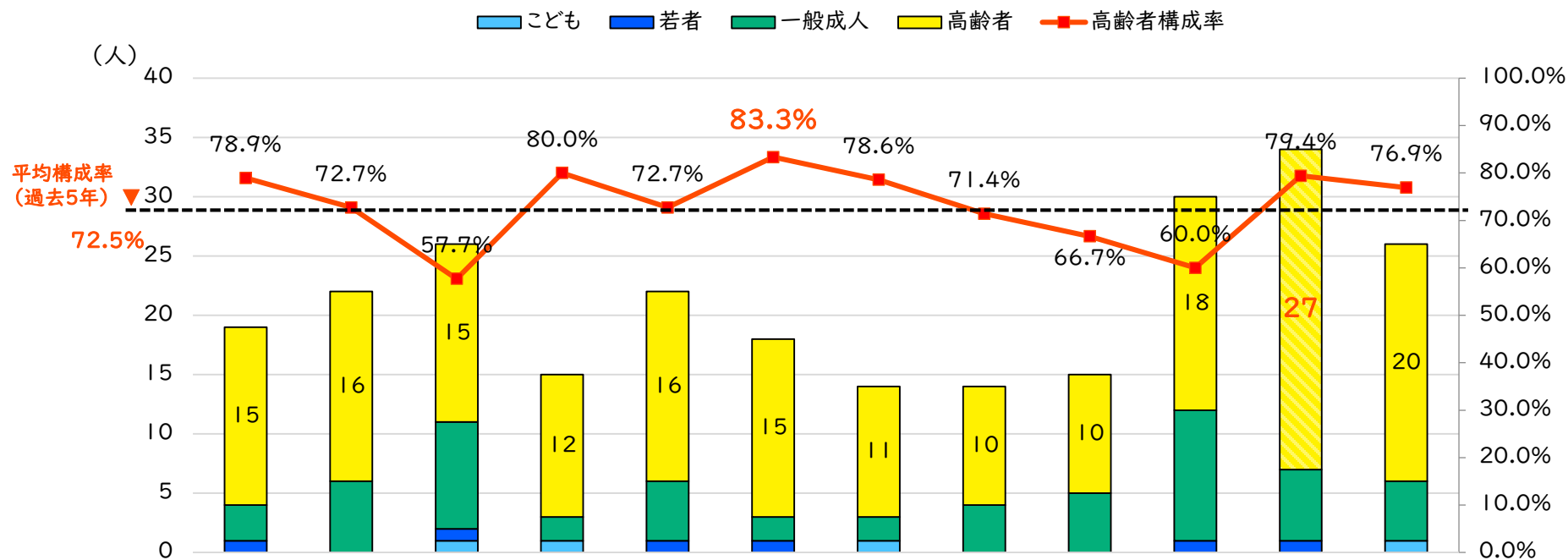


歩行者死者【年齢層別】

過去5年合算
(発生日基準)

2

- 歩行者死者255人のうち、高齢者は185人で、全体の7割以上(72.5%)を占める。
- 月別の高齢歩行者死者数は、11月が27人で最多となっている。
- 月別の歩行者死者数のうち、高齢者構成率は、6月が83.3%で最も高くなっている。



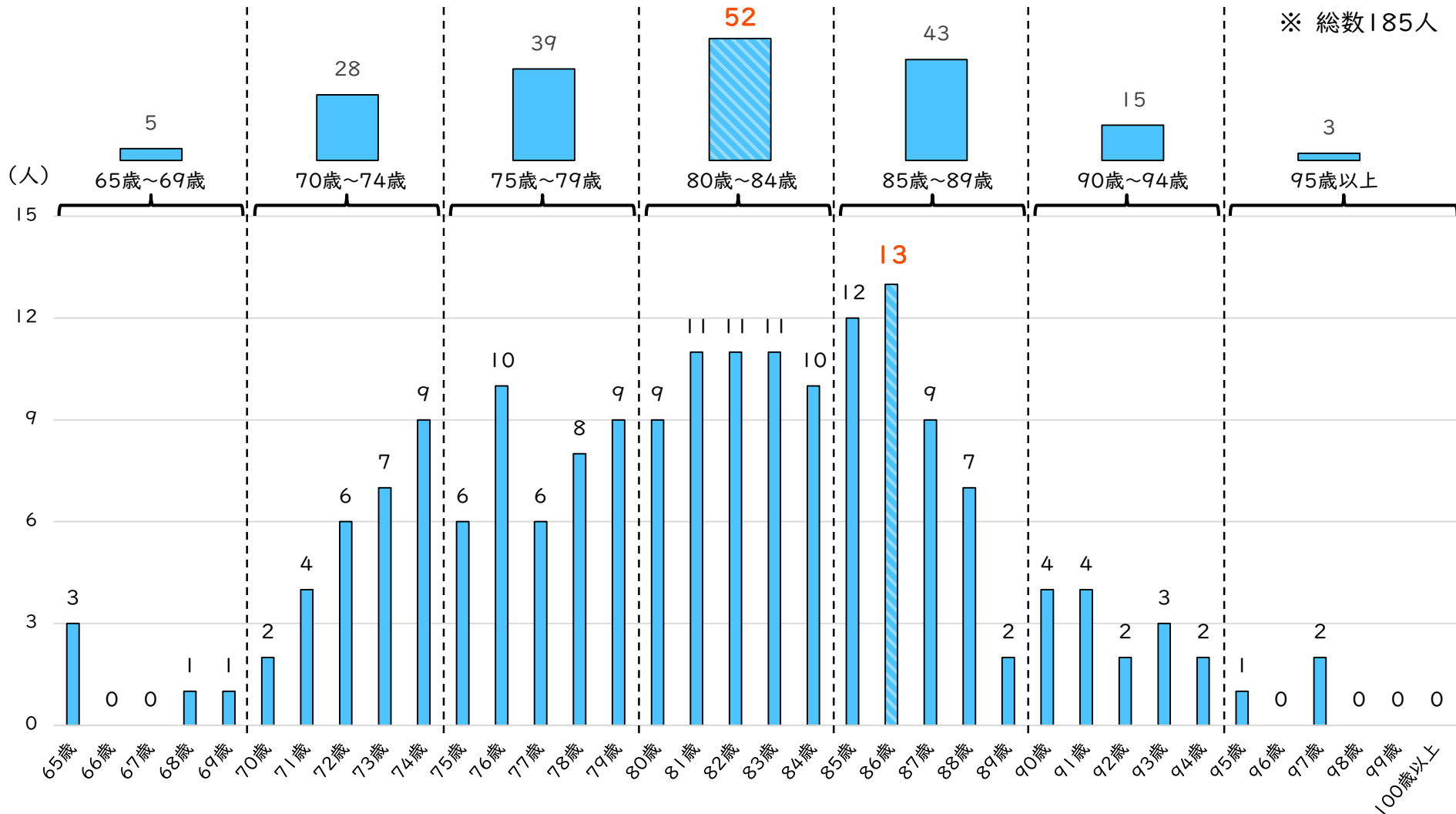
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
こども	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	4
若者	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	6
一般成人	3	6	9	2	5	2	2	4	5	11	6	5	60
高齢者	15	16	15	12	16	15	11	10	10	18	27	20	185
総計	19	22	26	15	22	18	14	14	15	30	34	26	255
高齢者構成率	78.9%	72.7%	57.7%	80.0%	72.7%	83.3%	78.6%	71.4%	66.7%	60.0%	79.4%	76.9%	72.5%

高齢歩行者死者【年代別】

過去5年合算
(発生日基準)

3

- 高齢歩行者死者185人の年代別(5歳区切り)死者数は、80歳～84歳が52人で最多となっている。
- また、年齢別(1歳区切り)死者数は、86歳が13人で最多となっている。



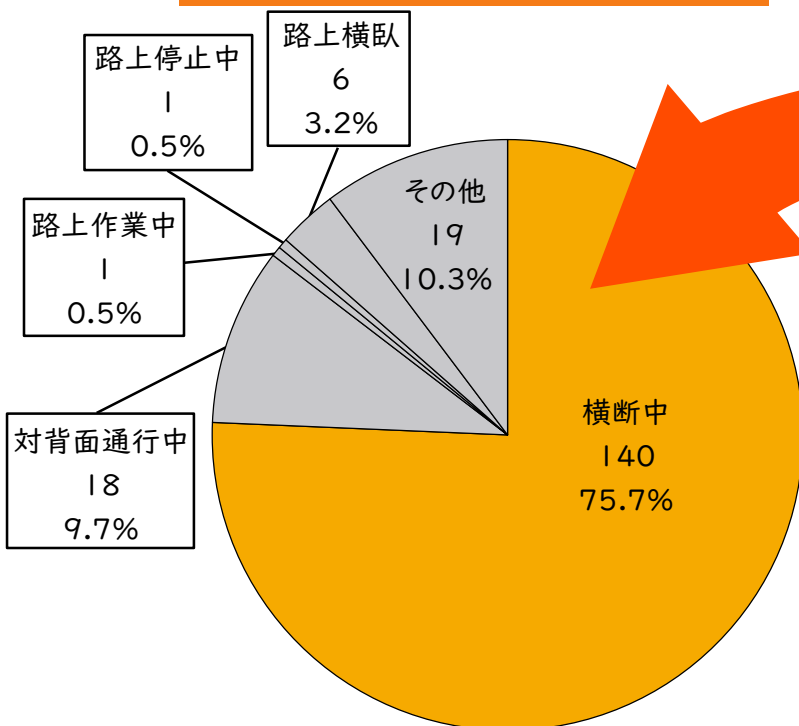
高齢歩行者死者【事故類型別】

過去5年合算
(発生日基準)

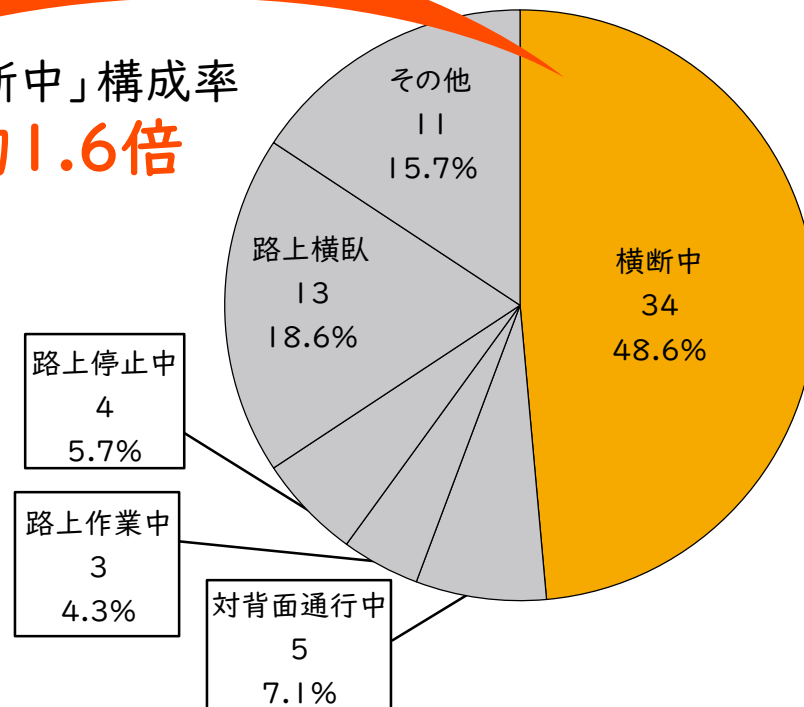
4

- 高齢歩行者死者185人の事故類型別死者数は、横断中が140人で、全体の約8割(75.7%)を占める。
- 歩行者死者255人のうち、事故類型が横断中の構成率は、高齢者では75.7%、高齢者以外では48.6%で、高齢者が高齢者以外の約1.6倍になっている。

高齢歩行者
総計185人



高齢者以外の歩行者
総計70人



「横断中」構成率
約1.6倍

横断中高齢歩行者死者【横断場所別】

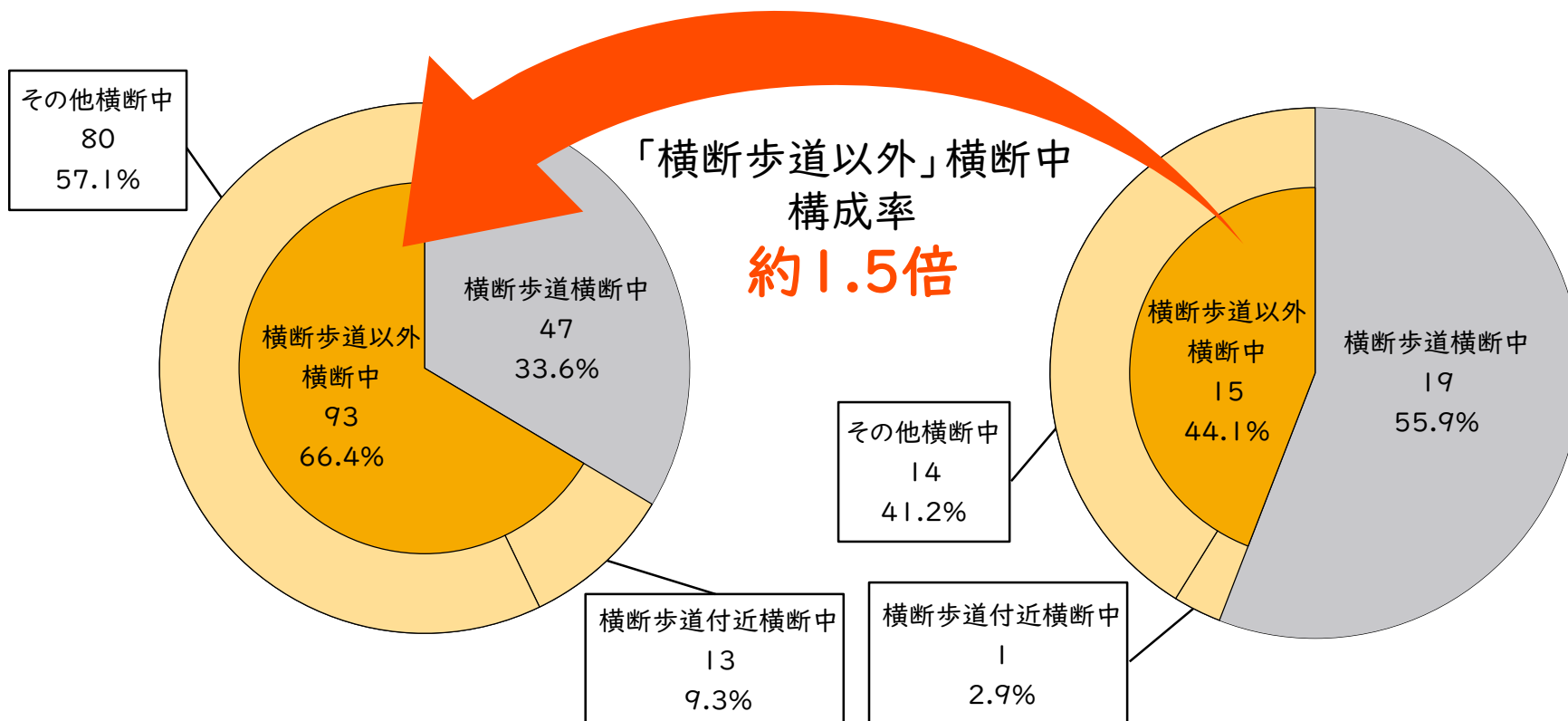
過去5年合算
(発生日基準)

5

- 横断中の高齢歩行者死者140人の横断場所別死者数は、横断歩道以外横断中が93人で、全体の約7割(66.4%)を占める。
- 横断中の歩行者死者174人のうち、横断歩道以外横断中の構成率は、高齢者では66.4% 高齢者以外では44.1%で、高齢者が高齢者以外の約1.5倍になっている。

高齢歩行者(横断中)
総計140人

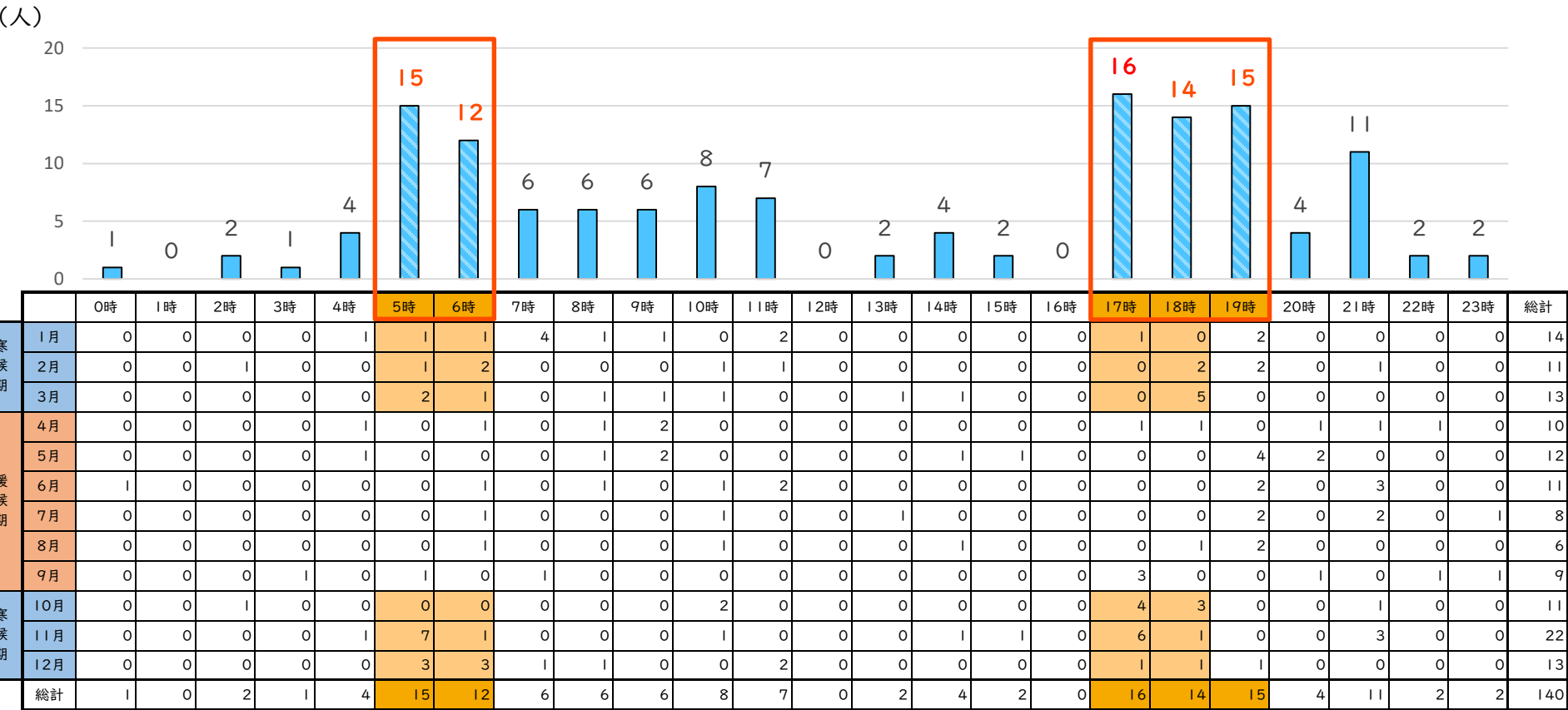
高齢者以外の歩行者(横断中)
総計34人



横断中高齢歩行者死者【月別・発生時間別】

過去5年合算
(発生日基準)

- 横断中の高齢歩行者死者140人の発生時間別死者数は、5時台～6時台及び17時台～19時台が多発傾向となっている。
- また、月別では、寒候期(1月～3月、10月～12月)における死者数が、5時台・6時台では8割以上(81.5%)、17時台・18時台では8割(80.0%)を占める。



5時台・6時台
寒候期が8割以上

17時台・18時台
寒候期が8割

横断中高齡歩行者死者【警察署別・発生時間別】

過去5年合算
(発生日基準)

7

- 横断中の高齢歩行者死者140人の警察署別・発生時間別死者数は、名古屋市では5時台が5人、尾張地域では18時台が7人、三河地域では17時台が7人で、それぞれ最多となっている。

[illegible]

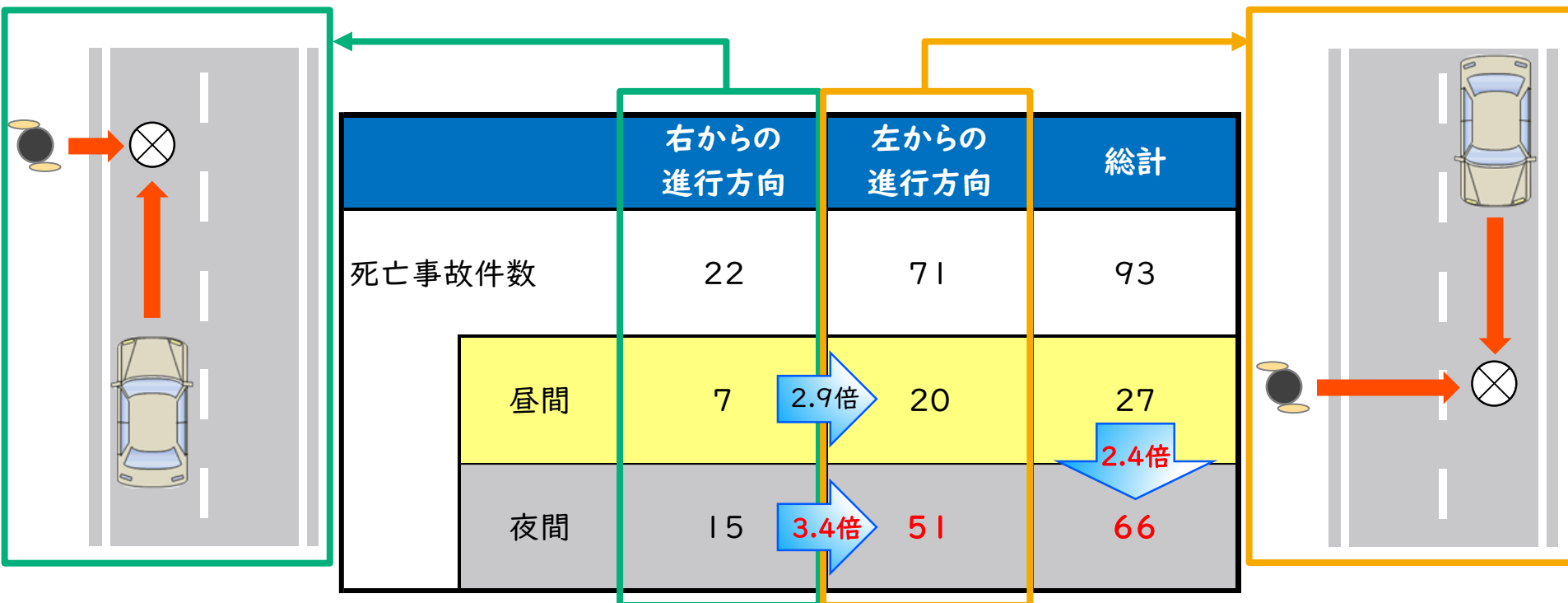
横断中高齡歩行者死者【警察署別・発生月別】

● 横断中の高齢歩行者死者140人の警察署別・発生月別死者数は、名古屋市内では11月が7人、尾張地域では2月が8人、三河地域では11月が8人で、それぞれ最多となっている。

横断中高齢歩行者死者【車両進行方向別・昼夜間別】

- 車両と横断中高齢歩行者の死亡事故では、歩行者から見て左から来る車両にはねられる事故が多く、特に夜間においては、より顕著な差（約3.4倍）が見られる。
- 昼間と夜間の事故件数を比較すると、夜間は昼間の約2.4倍となっている。

昼夜間別・歩行者から見た車両進行方向別
横断中高齢歩行者 死亡事故件数



※ 事故類型「横断中」、かつ、信号の無い場所で、車両（一般原付以上）は直進のみを抽出。
昼夜間別は日の出、日没を基準とする。

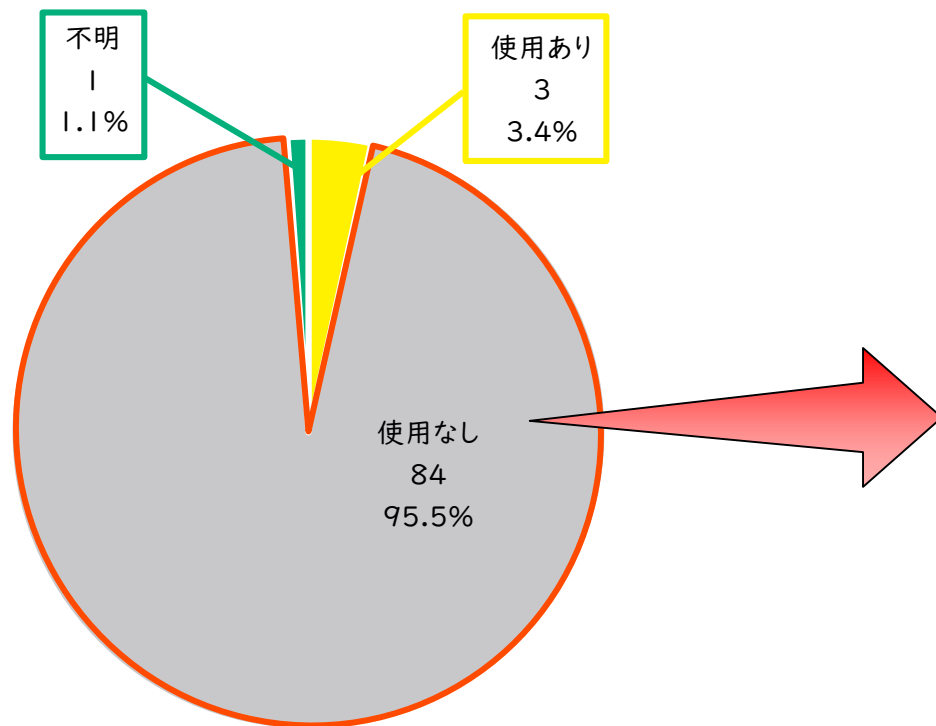
横断中高齢歩行者死者【反射材使用別・服装別】

過去5年合算
(発生日基準)

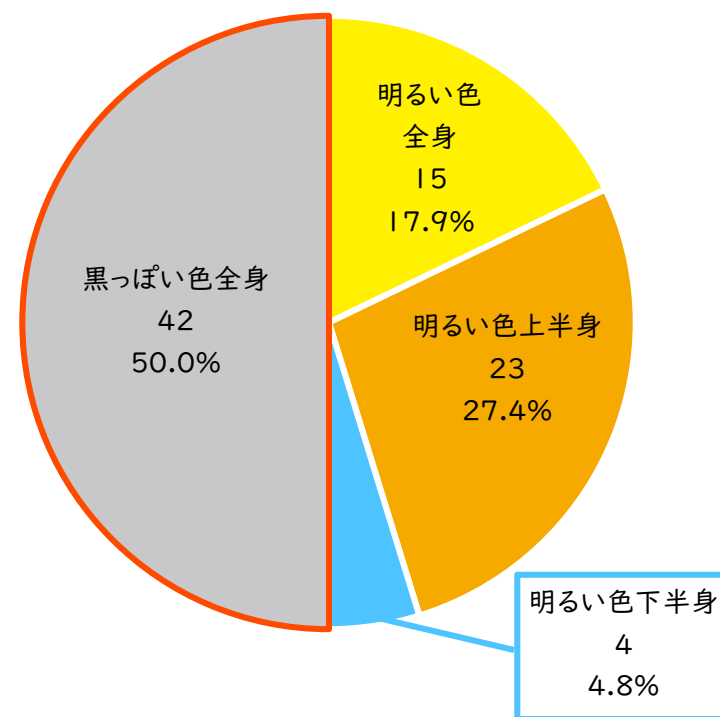
10

- 夜間における横断中高齢歩行者死者88人のうち、9割以上(95.5%)が反射材の使用なしとなっている。
- 反射材を使用していない横断中高齢歩行者死者84人の服装は、黒っぽい色全身が42人(50.0%)を占める。

夜間の横断中高齢歩行者死者
総数 88人

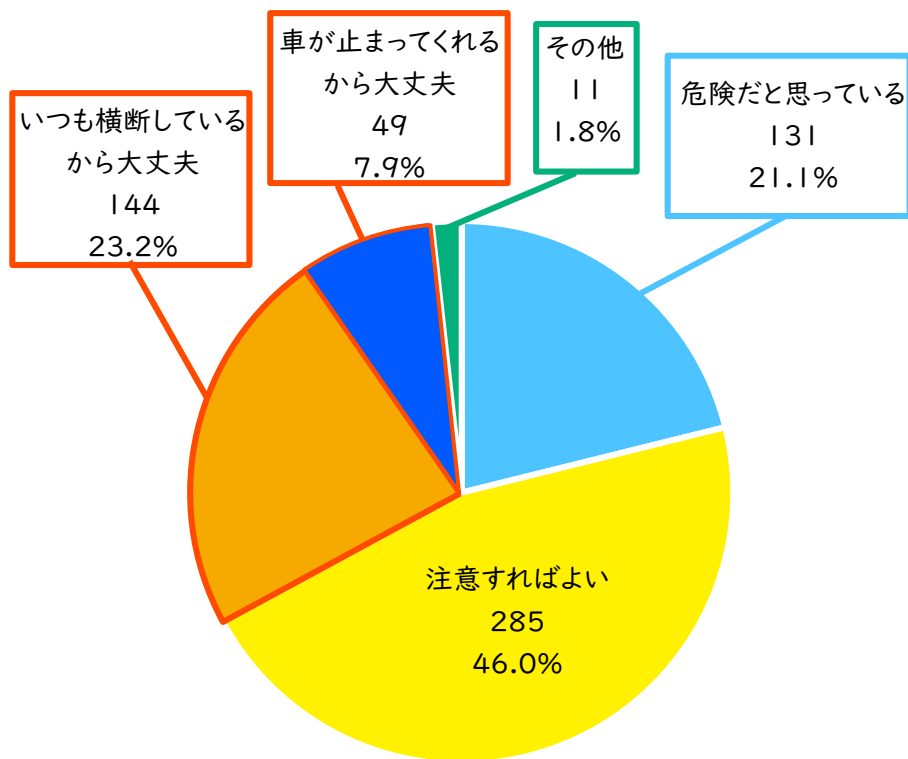


反射材使用なしの服装
総数 84人

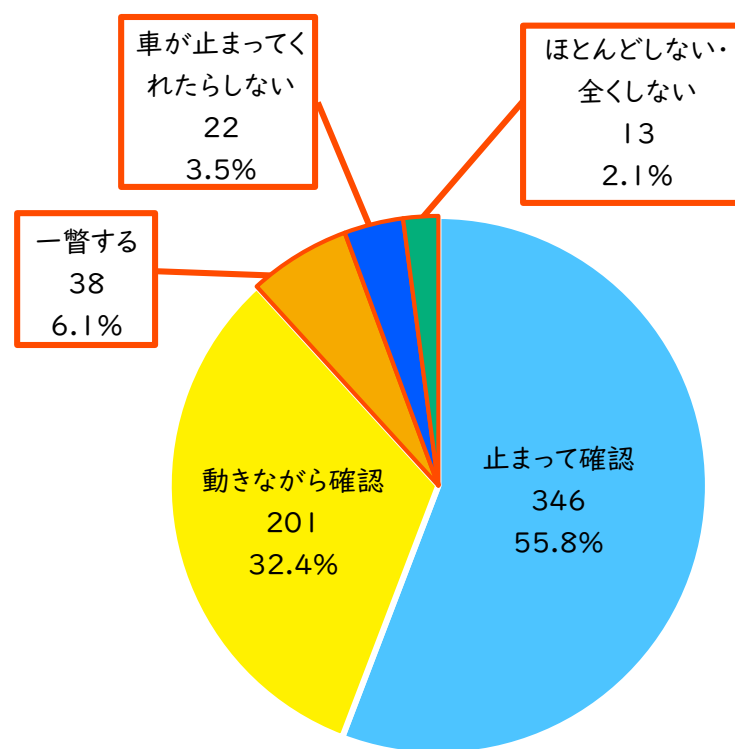


- 「いつも横断しているから、車が止まってくれるから大丈夫」という、危険性の認識が低い回答※が3割以上(31.1%)を占める。
- 安全確認の方法では、1割以上(11.7%)が「一瞥する、車が止まってくれたらしない、ほとんどしない・全くしない」という確認を行う意識が低い回答※であった。

横断時の危険性の認識



安全確認の方法



※令和6年中に愛知県内で実施した、横断歩道を利用せずに道路を横断又は横断しようとした高齢歩行者(620人)に対するアンケート結果

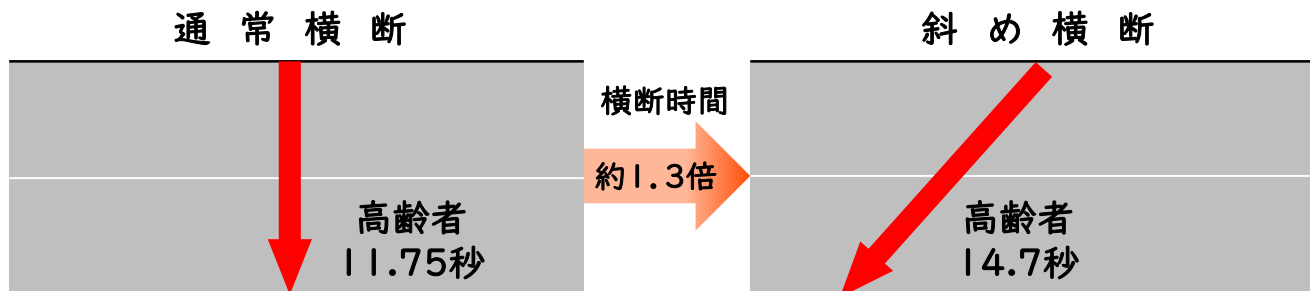
- いずれの横断方法においても、高齢者は一般成人よりも横断に時間を要する。
- 斜め横断は、通常横断よりも約1.3倍の時間を要する。

横断実験結果

	一般成人	高齢者
通常横断	7.85秒	11.75秒
速足横断	4.54秒	6.35秒
斜め横断	10.83秒	14.7秒

※ 一般成人5人(平均年齢41.8歳) 高齢者5人(平均年齢82.2歳)

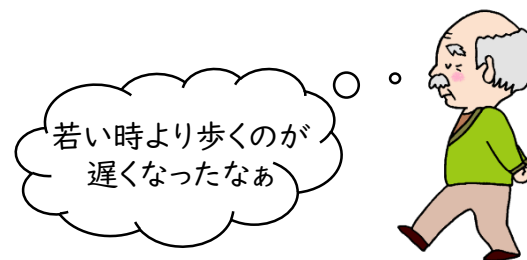
※ 幅13メートルの横断時間を計測



道路上にいる時間が長いため、
交通事故の**危険性増加**

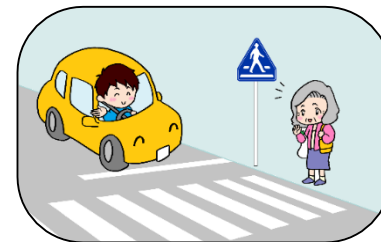
加齢に伴う身体機能の変化の認識

自身の歩行速度等の変化を認識しましょう。



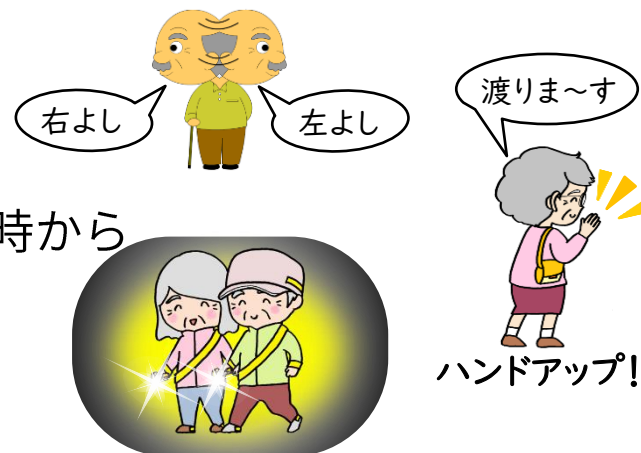
横断歩道を利用

付近に横断歩道がある場合は、横断歩道を利用しましょう。



身を守る交通行動を実践

横断前には必ず左右の安全確認を、横断中も二度目の安全確認をしましょう。
ドライバーへ横断する意思を伝えましょう。



朝の5～7・夕方の5～7（魔の時間）は特に注意

日の出が遅く、日没が早い寒候期は、特に朝夕の5時から7時までの時間帯に注意しましょう。

LEDライト・反射材の活用と明るい服装

自分は見えていると思っていても、ドライバーからは見えていないこともあります。
LEDライト等の活用と明るい服装で、自身の存在を目立たせましょう。